

越後謙信SAKEまつりを 終えて

越後謙信SAKEまつり実行委員長
（株）武蔵野酒造 代表取締役社長

小林 元

今年で二回目となる「越後謙信SAKEまつり2007」が開催されました。このまつり開催の目的は「酒」を地域の宝として全国に発信をし、酒や地場産品が売れることの経済効果はもちろんのこと、地域外の人が集まる事による外貨獲得や上越エリア全体の個性化の一翼を担うこととであります。

今回は市外からの入り込み客数割合三十％昨年は十二％を目標に十月二十七日（土）・二十八日（日）の二日間、高田本町商店街を歩行者天国にして開催致しました。

二十七日午後三時、あいにくの雨模様の中、木浦上越市長の鏡割りを合図にこのお祭りがスタートしました。今年は再来年の大河ドラマ「天地人」原作者である火坂雅志さんしかけついていた、盛り上がりがあったオープニングでありました。

しかしながら「この雨では今日は閑古鳥、出展者の皆様には謝らないといけない」と思った始まりでもありました。出足はやはり悪く、雨も激しくなり不安が倍増しておりましたが一時間を経過した頃からかなりの賑わいとなりました。本町商店街の雁木も雨天用の通路として、また小人数の臨時宴会場として利用されその役割を果たしておりました。

今年も五〇〇円で試飲グラスを購入頂くと各ブースのお酒が試飲出来るシステムにしたので本町通りはグラス片手にほろ酔いの人々の行列となりました。昨年、食のブースが足りずお叱りをいただきましたが、今年は昨年の賑わいが功を奏し、かなり出店が増えたことでお客さんも満足した様子でした。また昨年、好評であった新酒「越後謙信まつりSAKE」は増産したのにも関わらず売り切れとなりました。

ステージでは、「義会のメンバー」による謙信公武祿式、頸城杜氏による酒造り唄の披露、そして東京農業大学の大根踊りも登場し盛り上がりを見せておりました。いつもなら電気はついていますが闇に包まれているような本町通りの午後七時頃が一番の盛り上がり時間となり昨年同様の人出となりました。それぞれの辻から人が入り、それぞれの辻から人が出ていく、中には仲町に流れる人もあり高田らしい風景であると実感いたしました。一日目は雨にも関わらずよくこれだけの人が集まったなあといった感じで終了しました。酒飲みには天気は関係せずでした。

二日目は前日とは天候は正反対、朝から快晴となりました。この日は午前十時から午後三時の開催でありましたが開店前からかなりの人出。昨日、来れなかった人が押し掛けてきたといった感じです。朝も早くからグラス片手にあちこちからスタッフからも「俺も客になりたい」と本音がぼろり出ておりました。ステージでは地元ミュージシャンによるジャズ、津軽三味線、アカペラなどが披露され盛り上がりを見せておりました。昼前後は昨年以上のお客さんで埋め尽くされ、ちよつと古い表現ですが原宿の竹下通りを思わせるほどでありました。

この二日間で昨年を一、〇〇〇人上回る約三二、〇〇〇人を集客することが出来ました。また、市外からの入り込み客数割合二十％を達成することが出来ました。来年は更にレベルアップをし、ツアーなどを企画してもらえようようなSAKEまつりにしていきたいと考えております。

